

健康測定に於ける血管指標API、AVIの検討

山田明夫¹⁾、山内 康義²⁾

1) 栄町クリニック、2) ヘルシエイジング学会

【目的】 シングルカフによる測定で得られる血管指標AVI、APIが、生活習慣との関連に於いてどのような意味を持つかを検討する。

【対象ならびに方法】 ヘルシエイジング学会主催の健康測定に参加した一般市民の内、同意を得た60名の被験者(男性26名、女性34名、平均年齢57.9歳)について問診により得られた年齢、性別、体型、病歴、家族歴、生活習慣ならびに薬物介入の有無と、測定により得られた血管指標AVI、APIとの関係を調査した。

【結果】 1) 全被験者についてみるとAVI、APIとも弱い年齢相関が認められた。(AVI R²=0.35, API R²=0.31) 2) 薬物介入が無い被験者(男性18名、女性12名、合計30名)に限定してみると、AVI、APIともに中程度の年齢相関が認められた。(AVI R²=0.51, API R²=0.46) (図1)

3) 降圧剤、降糖薬、高脂血症薬いずれか、あるいは複数の薬物介入がある被験者(男性8名、女性22名、合計30名)についてみると、AVI、APIともに年齢相関は認められなかった。(AVI R²=0.05, API R²=0.05) (図2)

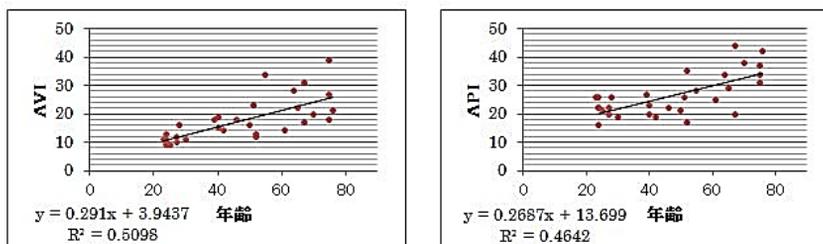


図1 非薬物介入群のAVI、APIと年齢の相関

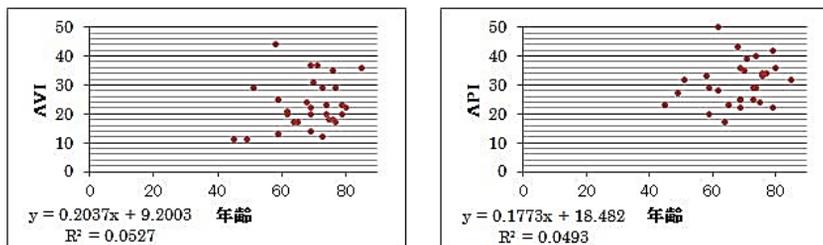


図2 薬物介入群のAVI、APIと年齢の相関

【考察ならびに結語】 1) 非薬物介入群についてはAVI、APIには明らかな年齢相関が認められ、動脈壁硬化の指標となることが示唆された。 2) 薬物介入群については薬物治療の効果がAVI、APIに反映されているものと考えられた。 3) AVI、APIは極めて簡便に測れる血管指標であり、精度良く血行動態を反映している可能性があることから、日常診療への応用によって予防医療や診断治療の高度化に大いに貢献することが期待される。